

1. はじめに

○策定の目的

本市では、自家用車で移動する方が多い地域特性や新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う移動の自粛等により、地域公共交通の利用者数が落ち込んでおり、地域公共交通のサービスを維持していくことが厳しい状況にあります。一方、高齢者の運転免許の返納も増える中、受け皿としての移動手段及び観光振興を図る上での2次交通など、地域公共交通の役割は、一層重要になってきています。

今後も地域公共交通を維持・確保していくためには、さまざまな輸送資源を最大限に活用し、地域全体の公共交通ネットワークを構築したり、市民バス等の運行の見直しや利用促進等のPR活動などさまざまな取り組みを実施し、利用者数の増加を図っていく必要があります。

本計画では、高齢者等の日常生活や来訪する観光客にとって利用しやすいように、地域住民等のニーズに基づき、より利便性の高い持続可能な地域公共交通の構築を目指していきます。

○計画の位置付け

本計画は、人口ビジョンを受けた総合戦略の下部計画に位置付け、市民生活や観光などの交流に機能する公共交通の構築を目指していきます。

○計画の区域と期間

計画の区域 甲州市全域
計画期間 5年間（令和4年度～令和8年度）

2. 現況と課題

○甲州市の現況

本市では、公共施設や病院施設、商業施設は、塩山駅周辺の市街地エリアに集積しています。観光施設は、塩山地域に神社・仏閣や観光農園が、勝沼地域にワイナリーや観光農園が多く分布しています。

人口は年々減少しています。一方、65歳以上の高齢者は年々増加し、高齢化が進展しています。

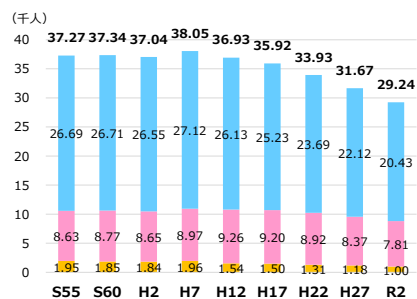


図1 人口の推移

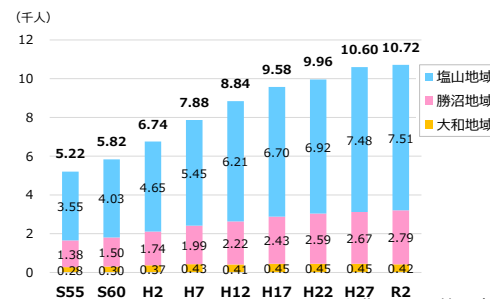


図2 65歳以上の人口の推移

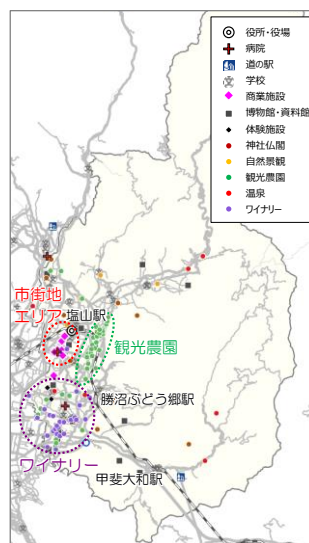


図3 施設の分布状況

○甲州市の地域公共交通

概ね人口分布をカバーし、各地域から市街地エリア（塩山駅）までのバス路線が整備されています。

市民バスや路線バス、デマンドバスの1日あたりの平均利用者数の推移は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年々、減少傾向にあります。

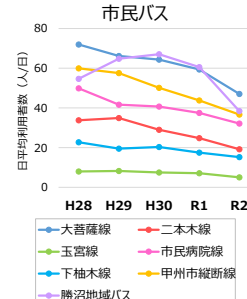


図4 公共施設の日平均利用者数の推移

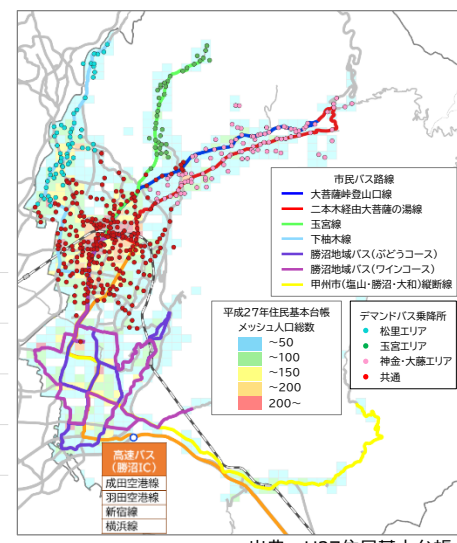
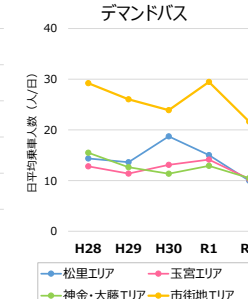
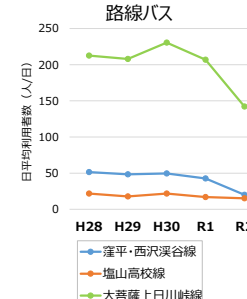


図5 公共交通ネットワーク

○地域公共交通における問題点と課題

地域全体を見渡した公共交通サービスの持続可能な提供の確保

- ・人口減少、自家用車依存、コロナ禍の外出自粛等により利用者が減少
- ・高齢化が進展し、公共交通を利用する交通弱者の増加が予想される

居住地域から市街地エリアまでの公共交通の利便性向上

- ・まちづくりの方針では、市街地及び各拠点間を結ぶ交通として、通勤、通学、買物及び通院など住民の日常生活を支えることを目指している

住民の協力を含む関係者の連携

- ・市民バスは、地区に1台など限られた制約のなかで運行している
- ・住民や自治会等と、改善ニーズについて意見を収集・集約する必要性

塩山地域：地域住民ニーズに応じた運行内容の見直し

- ・市民バス及びデマンドバスの利用者数は年々減少しており、特に玉宮線（市民バス）の利用者数が低迷

勝沼地域：ターゲットを明確にした運行内容の見直し

- ・勝沼地域バスは“市民”と“観光客”を利用対象者とし、地域を隈なく回る結果、所要時間が長く、運行本数を確保できず利便性が低い

大和地域：他路線等と連携した縦断線の見直し

- ・観光利用や通学利用に対応した運行のため、市民の日常利用が優先されていない

基本方針

1：地域特性に応じた市街地エリアへの公共交通の利便性向上

2：多様な主体との連携による持続可能な公共交通の構築

3：観光客の来訪や交流を促進する観光交通の確保

3. 基本的な方針と目標

本市の現状や課題を踏まえ、市のまちづくりを支える公共交通を目指し、基本方針と計画の目標を以下のとおり定めます。

地域公共交通の基本方針

基本方針 1：地域特性に応じた市街地エリアへの公共交通の利便性向上

地域特性に応じて、商業施設や病院等の都市機能が集約する市街地エリアまでの移動および市街地エリア内の移動の利便性について向上させ、まちづくりと連携した公共交通を構築します。

基本方針 2：多様な主体との連携による持続可能な公共交通の構築

公共交通事業は、人口減少や新型コロナウイルスの感染症の拡大、過度な自家用車依存等から利用者数は減少し厳しい状況です。

従来の行政と交通事業者に加え、地域住民や自治会、社会福祉協議会、教育委員会等の多様な主体と連携し持続可能な地域全体の公共交通ネットワークを構築します。

基本方針 3：観光客の来訪や交流を促進する観光交通の確保

観光客の増加を目指し、鉄道等を利用して来訪する観光客の移動利便性を高めるよう、観光施設を巡る観光交通の確保を図ります。

計画の目標

目標 1：市街地エリアまでの公共交通の利便性向上

各地域から商業施設や病院等の都市機能が集積する市街地エリアまでの、公共交通の利便性の向上を図ります。はじめに、利用者数が低迷している玉宮地区の市民バス及びデマンドバスから、住民ニーズに基づく利便性の向上を図ります。



目標 2：生活密着型の公共交通の確立

高齢化の進展を踏まえ、主に高齢者の買物や通院などの日常生活を支える公共交通の充実を図ります。

目標 3：観光 2 次交通の整備

鉄道等を利用して来訪する観光客の市内の移動手段を確保するため、観光 2 次交通の強化を図ります。

4. 目標を達成するための事業内容および評価指標

計画の目標を達成するために行う事業を以下のとおり設定します。

| 事業 1 玉宮地区の公共交通改善に向けた見直し・再周知 | |
|-------------------------------------|---|
| 地域 | 玉宮地域 |
| 計画目標 | 目標 1：市街地エリアまでの公共交通の利便性向上 目標 2：生活密着型の公共交通の確立 |
| 実施主体 | 甲州市、バス運行事業者 |
| 事業内容 | ・地元住民を対象にした公共交通の利用実態調査を実施し、地域の移動ニーズを精査 ・地域との協議を踏まえたうえで、市民バスおよびデマンドバスの持続可能な運行の再構築 ・住民の意見を集約しつつ、公共交通の利用促進・PR |
| 評価指標 | ・市民バス（玉宮線）：現況値5人/日（ピーク8人/日） →目標値10人/日 ・デマンドバス（玉宮エリア）：現況値10人/日（ピーク14人/日） →目標値17人/日 ・市民バス全体の収支率：現況値13% →目標値13% |
| 備考 | ・市民バスの運行維持に関わる市財政負担額 約80,000千円 ・デマンドバスの運行は、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統 確保維持費国庫補助金）の対象 ・現況値はR2年度の年間平均利用者数、ピークは過去5年間の最多年間平均利用者数 |
| 事業 2 勝沼・大和地域の住民ニーズに応える運行ダイヤ・経路見直し検討 | |
| 地域 | 勝沼、大和地域 |
| 計画目標 | 目標 1：市街地エリアまでの公共交通の利便性向上 目標 2：生活密着型の公共交通の確立 |
| 実施主体 | 甲州市、バス運行事業者 |
| 事業内容 | ・地元住民を対象にした公共交通の利用実態調査を実施し、地域の移動ニーズを精査 ・市民の移動ニーズに合わせて公共交通の運行ダイヤ・経路を見直し、地域循環および市街地 往來時間を改善 ・本市における交通資源を総動員し、交通機関間の接続性見直しを検討 |
| 評価指標 | ・勝沼地域バス：現況値38人/日（ピーク67人/日） →目標値74人/日 ・甲州市縦断線：現況値37人/日（ピーク60人/日） →目標値66人/日 |
| 備考 | ・現況値はR2年度の年間平均利用者数、ピークは過去5年間の最多年間平均利用者数 |
| 事業 3 観光 2 次交通の整備調整 | |
| 地域 | 甲州市全域 |
| 計画目標 | 目標 3：観光 2 次交通の整備 |
| 実施主体 | 甲州市、バス運行事業者 |
| 事業内容 | ・観光ニーズに応じた運行に向けてバス事業者と調整・連携 ・本市の公共交通の内容を誰もがわかりやすく周知するために、乗り継ぎや路線図など公共交通に関する情報を発信 |
| 評価指標 | ・勝沼周遊バス：現況値1,075人/年（ピーク5,015人/年） →目標値5,000人/年 |
| 備考 | ・目標値は、過去（平成30年度）のピーク利用者数を指す ・現況値はR2年度の年間利用者数、ピークは過去5年間の最多年間利用者数 |

5. 事業スケジュール

目標値の達成状況は、計画の最終年度に達成できるようにPDCAサイクルの仕組みにより、毎年、地域公共交通会議において評価しながら実施します。

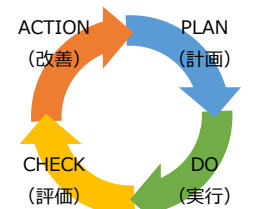
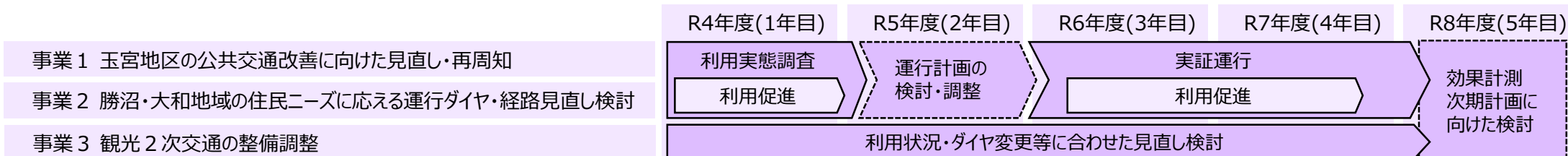


図6 PDCAサイクル